

3 研究のまとめ

(1) 研究の成果

創作活動において、反復・変化・対照などの音楽の構成原理を用いて、構成原理によって生み出される雰囲気を感じながら、イメージや思いと旋律の反復、変化のさせ方などについて、音楽科の特質を踏まえた言語活動を通して交流する場面を設定しました。具体的には、生徒が音楽の構成原理をより知覚・感受することができるように、身近な楽曲の楽譜を提示し、楽譜で音楽の構成原理を視覚的に確かめたり、思考の流れに合わせたワークシートを工夫したりしました。その結果、音楽の構成原理から生み出される雰囲気を感じながら、構成原理を用いて創作活動に取り組むことができました。

ペアで交流する活動を仕組むことによって、「表現を工夫したことや思ったことを書くこと」と「友達に話すこと」については、肯定的な回答（「好き」「どちらかといえば好き」）をした生徒が大きく増加しました。特に、「友達に話すこと」については、29%増加しました。言語活動への意識の変容が見られ、良さや楽しさを実感させることができました。

事前調査では、生徒の多くが〔共通事項〕の用語を知らなかったり、知っていても誤った意味で捉えていたりしていましたが、授業後は〔共通事項〕の用語を正しく理解し、それらの言葉を使って、創作表現についての思いや意図を記述している生徒が増えました。

「創作活動に対する意識」も大きく変化し、86%の生徒が創作活動について肯定的な回答（「好き」「どちらかといえば好き」）をしており、創作活動を「好き」「楽しい」と感じるようになりました。本研究の「試行錯誤する活動」と「音と言葉を関連付けながら伝え合う言語活動」を関連付けて位置付けるという手立ては、有効であったと考えます。

(2) 研究の課題

授業の創作で扱った「反復」「変化」についての認識は高まりましたが、「対照」についての認識はほとんど変わりませんでした。音楽の構成原理の1つとして、具体的に示す等、もう少し丁寧に扱う必要があったと考えます。また、今回、ペアで2声の音楽の創作を行い、旋律と旋律の関係性に気付いている生徒の記述もありました。授業の中では特に扱いませんでしたが、〔共通事項〕の「テクスチャ」について触れることで、より互いの旋律の関係性に関心をもたせることができたのではないかと思います。他にも「強弱」「音色」と「変化」を関わらせたりすることも、生徒が創作活動の過程において諸要素を直接扱い、働きを知覚・感受することができ、効果的だと思います。

今回は創作だけの題材構成でしたが、中学1年の「日本の民謡」の鑑賞や表現の学習と関連させた題材構成にすることで、より知覚・感受を深めさせることができると考えます。今回扱った民謡音階だけでなく、沖縄音階や律音階など様々な音階の雰囲気を感じ、イメージに合う音階を選択して創作活動に取り組みさせることができます。そうした題材構成の工夫をすることで、さらに、生徒が音楽の構成原理を確かに知覚し、豊かに感受しながら、それらを基にした創作活動に取り組むことができるような授業づくりにつなげることができると考えます。